話題提供４

SNSにおける論破のコンテンツ化とその影響

立命館大学 大学院 先端総合学術研究科
戸谷 洋志
hiroshi.toya@gmail.com

本発表の狙い

- 近年、子どもたちの間で「それってあなたの感想ですよね」という言葉が大きな影響力を持っている。
- この言葉は実業家の西村博之が語ったもので、テレビ番組で相手を「論破」するために使用された。
- 西村が相手を「論破」した映像は、その後、動画コンテンツとしてSNSに投稿され、多くの回数を稼いだ。
- 子どもたちの間で、「論破力」がある種の美徳として認識されているなら、それはいかなるコミュニケーションの態度なのか？
- この問題を、コミュニケーションに対する西村の思想から析出し、話題提供としたい。

ベネッセ小学生流行語ランキング

2022年[1]

1位「それってあなたの感想ですよね？」
2位「それな」
3位「ギャルピース」
4位「パワー！」

2023年[2]

1位「ひき肉です」
2位「それな」
3位「なぁぜなぁぜ？」
4位「それってあなたの感想ですよね？」

1:「進研ゼミ小学講座」の小学3～6年生の会員を対象に13,816人（女子9,238人・男子3,691人・性別無回答887人）が回答。
https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000001094.000000120.html

2:「進研ゼミ小学講座」の小学3～6年生の会員を対象に18,802人（女子12,859人、男子4,728人、性別無回答・その他1,215人）が回答。
https://benesse.jp/kosodate/202312/20231222-1.html

教育現場への影響？

「授業中、対話遮る「ひろゆキッズ」の流行語　対立恐れ「いいね」追従」

　関西の小学校で昨秋、こんなことがあった。
　掃除の時間にふざけていた子を、別の子が「ちゃんとやってよ」と注意した。言われた子がおどけて言い返した。
　「それって、あなたの感想ですよね？」
　周りにいた子たちが笑った。注意した子は黙り込んだ。
　北海道の小学校の授業中。先生に指名された児童が発言した。すかさず、別の児童が「それって、あなたの感想ですよね？」。周りの子たちはニヤニヤ。
　最近、学校でこんな光景が珍しくないという。

朝日新聞「授業中、対話遮る「ひろゆキッズ」の流行語　対立恐れ「いいね」追従」2023年5月5日
https://digital.asahi.com/articles/ASR4Y5GMRR4TUTIL03K.html?_requesturl=articles%2FASR4Y5GMRR4TUTIL03K.html&pn=11

小学生は何を見たのか？

- 「それってあなたの感想ですよね」は2015年6月22日に放送されたテレビ番組『ビートたけしのTVタックル』で1度だけ語られた（2020年代になるとネットミームとして西村自身が頻発するようになる）。

- 西村が「それってあなたの感想ですよね」と発言した前後数分が「切り抜き」され、SNSなどで動画コンテンツとして投稿。

- 2010年代後半～2020年代に小学生であった世代はテレビ番組ではなくSNSの「切り抜き」動画を見ていたと推定される。

論破コンテンツが拡散する背景

- 西村に限らず、SNS上では相手を「論破」コンテンツが数多く投稿されている。
- 者の注意は有限であり、一種の資本として取引される。より注意を集めているコンテンツは、注意を集めているという理由によって、それだけ一層新たな注意を集める。同時に、蓄積された注意は発信者の社会的威信に寄与する。（Frank 2021）
- 多くの人からされているコンテンツは、ただそれが多くの人からされているという理由によって、事実として認識される。（サンスティーン 2018）
- インターネットでは、アルゴリズムによって自分と似た傾向の人がしたコンテンツが優先的に表示されるよう、フィルタリングされている。（パリサー 2012）
- 回数が可視化され、コンテンツをフィルタリングするアルゴリズムが実装されたSNSにおいて、「論破」は影響力を獲得するための有力な手段になっている。

西村による「論破力」の定義

- 西村は自身の「論破力」について、次のように解説している。

  > 要するに、「論破力＝説得力のある話し方」なのですが、その説得力をどう高めるかというのは、議論している直接の相手に対してではなく、議論を見聞きしている周りの人に対して高めていくことなのですね。（西村 2018）
  >
  > それを見聞きしている周りの人たちに、「この人が言っていることは正しいんだ」と思わせるような「印象」を与えること。それがおいらのいう「論破力＝説得力のある話し方」です。（西村 2018）

- 論破は、議論の相手が論破されたことを認めることによってではなく、その議論を外部から眺め、第三者によってそこで論破がなされた認定されることで、成立する。＝相手が自らの主張に合意しうるかは無関係。

プログラマーの美徳

- 西村はプログラマーとして活動していた時期があり、その当時に培われた発想が議論においても活かされているという。

- プログラミングのスキル（一部）
    - 情報整理術
    - 物事を効率化する方法、数値化する力
    - 優先順位を見極めること
    - 仮説を立てる癖
    - 模倣するショートカット術など（西村 2022）

- ここには、一般的に、他者とのコミュニケーションにおいて望ましいものとして評価されないものである（たとえば、「模倣」・「ショートカット」）。

- プログラマーにとっては、問題を解決するために、すでに優れたソースコードが存在するならば、それを模倣することは決して悪いことではない。この文脈では、丁寧さは無用な価値である。

プログラミング的対話

- 優れたプログラマー＝言語に習熟し、頭の中で思い描いた通りのウェブサイトを構築し、問題を解決するために、もっとも合理的なソースコードを設計することができる職人

- プログラマーがミスをしていたら、コンピューターはエラーを起こして反応しなくなってしまう。コンピューターの方が、プログラマーの意図を汲むことはまずない。

- 西村はこうしたプログラミングの発想をコミュニケーションの実践においても応用すべきであると主張する。

  > 自分の指示した通りに人が動かなかったり、物事が進まなかったりした際も、プログラマー思考が身についていれば、「もしかすると、自分の指示が間違っているのでは？」「自分に説明する能力がないのでは？」と気づき、問題解決につながることもあります。（西村 2022）

- 議論の相手は対等なコミュニケーションのパートナーとして扱われていない。

論破への動機付け

- プログラマーにとってコンピューター：「宇宙人かなぞの生物」（西村 2022）
  - 原理的に「私」を理解してくれないし、「私」からも相手を理解できないが、こちらが正しく命令すれば、それに応えてくれる。
  - プログラマーの基本的な価値感：「命令した通りの結果が出る快感」

  要はおいらの場合、怒らせる技も怒りをかわす技も、ちょっとした嫌がらせにしても「相手にどう思われてもいい。とりあえずどんなボールが返ってくるのか、面白そうだから やってみよう」とやってしまえるわけです。（西村 2018）

  論理という道具を使うと、自分がどんなに不利な状況でも何とかなる場合があるということや、「自分のやりたいことを押し通すためには、この手を使うとけっこういける」ということに、おいらはわりと早い段階で気づいていたと思います。そしておいらの場合、昔から自分の中で「思いどおりにしたい」という気持ちが強ければ強いほど、どうやら論破力が発揮されるようなのです。（西村 2018）

- 議論の相手を対等なパートナーとして扱わないからこそ、相手との関係性の構築にも配慮しない。→　相手との関係性を破綻させる言動も行う。

まとめ

- 相手に「それってあなたの感想ですよね」と言うとき、何が起きているのか？
    - 相手を対等な議論のパートナーとして扱わない
    - 相手との関係性の構築を配慮しない
    - 丁寧に説明することの軽視
    - 相手を自分の思うように動かしたい、という支配欲に動機づけられている
- このような態度が子どもたちの間で美徳として浸透しているのだとしたら、それは子どもたちのコミュニケーション実践にも、大きな影響を与えるのではないだろうか。

参考文献

- Georg Franck, Vanity Fairs: Another View of the Economy of Attention, Springer; 2021年。
- キャス・サンスティーン『#リパブリック: インターネットは民主主義になにをもたらすのか』伊達 尚美 訳、勁草書房、2018年。
- イーライ・パリサー『閉じこもるインターネット—グーグル・パーソナライズ・民主主義』井口 耕二訳、早川書房、2012年。
- 西村博之『論破力』朝日新書、2018年。
- 西村博之『プログラマーは世界をどう見ているのか』ＳＢ新書、2022年。
- 株式会社ベネッセコーポレーション「＜「進研ゼミ小学講座」　小学生13,000人に聞きました！2022年総決算ランキング＞」PR TIME, 2022年12月1日
（ https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000001094.000000120.html　2025年12月19日閲覧）
- 株式会社ベネッセコーポレーション「 ＜「進研ゼミ小学講座」　小学生18,000人への意識調査　2023年総決算ランキング＞」PR TIME,2023年12月1日
（ https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000001211.000000120.html　2025年12月19日閲覧）
- 朝日新聞「授業中、対話遮る「ひろゆキッズ」の流行語　対立恐れ「いいね」追従」2023年5月5日
(https://digital.asahi.com/articles/ASR4Y5GMRR4TUTIL03K.html?_requesturl=articles%2FASR4Y5GMRR4TUTIL03K.html&pn=11　2025年12月19日閲覧）